

平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立 真住 中 学 校

生徒数

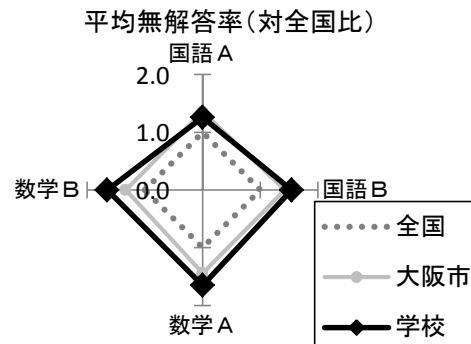
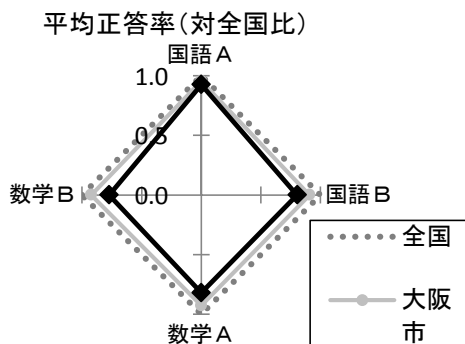
203

平均正答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	73.5	41.0	55.2	46.2
大阪市	75.9	46.3	62.5	55.2
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

平均無解答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	3.9	5.4	7.1	18.0
大阪市	4.2	5.0	6.2	14.5
全国	3.1	3.5	4.3	10.9



結果の概要

国語・数学の両方の教科でA・B問題ともに全領域で正答率が全国・大阪市を下回った。無解答率について国語A以外は全国・大阪市より高くなっている。特に数学の無解答率が高い。基本的な生活習慣については、朝食喫食率の低いことや携帯電話・スマートフォン・携帯ゲーム類の使用時間が全国平均を上回っている。家庭学習において、一日に2時間以上学習をしている生徒が多い反面、全く学習をしない生徒も全国平均を大きく上回っている。校内組織においては、学級運営にかかる状況や課題を共有する場面が十分に確保できていない。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

「国語が好き」な生徒と「国語の授業の内容はよく分かる」生徒、および「数学が好き」な生徒と「数学の授業の内容はよく分かる」生徒は全国平均を上回っている。国語・数学の両教科において基礎的な学習事項が定着していない生徒が多い。日常的な復習を中心とした家庭学習を習慣化させるため、家庭学習教材の活用を進める。また、家庭学習の時間を確保する上で、携帯電話やスマートフォン、携帯ゲーム類の使用時間を制限することを家庭と協力してすすめることが重要である。家庭学習を全くしない生徒の割合を減らす取り組みをすすめる必要がある。校内組織の改善を図り、学級運営にかかる状況や課題を共有する場を確保していく。